

各位

会社名 株式会社バンダイナムコホールディングス
代表者名 代表取締役社長 浅古有寿
(コード番号 7832 東証プライム市場)
問合せ先 取締役CFO 辻隆志
(TEL: 03-6634-8800)

「2026年3月期の当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要」について

当社は、取締役会の実効性を高め企業価値を向上させることを目的として定期的に取り締役会の実効性に関する評価を行い、その結果の概要を公表することとしております。この度2026年3月期の取締役会の実効性に関する評価を行いましたので、その結果の概要を公表いたします。

1. 評価の方法・プロセス

2026年3月期の取締役会の実効性評価についての質問票は、取締役会の機能、機能を支える基盤、取締役の実効性のフレームワークのもと、前年度の評価結果と取り組みを踏まえ、取締役間の議論の深化にかかる自由記述設問を追加するなど、一部内容の変更を行いました。

- ① 当社取締役会（2025年10月）において独立役員会の議長より取締役会実効性評価の目的や内容を説明の上、全37問（※）の質問票を、全取締役15名に対して配布し回答を得ました。
- ② 各取締役の回答内容を第三者専門機関により集計し、その結果をもとに、独立社外取締役5名で構成される会議体「独立役員会」（2025年11月）において、結果に基づく分析や検証を行いました。
- ③ 当社取締役会（2025年12月）において、独立役員会の議長より、現状の評価結果および課題の共有を実施し、取締役会への提言を行いました。
- ④ 当社取締役会（2026年2月）において、独立役員会からの提言を踏まえ、今後の議論や取り組みの方向性について確認しました。

2. 2026年3月期取締役会の実効性に関する評価結果の概要

<評価と課題>

2026年3月期の当社取締役会は、ボードカルチャーや議長の役割等について高く評価されるなど取締役会の機能を支える基盤や取締役の実効性は概ね十分であるとの認識が得られた一方で、事業戦略の機動的な見直しやリスクマネジメントなど長期的な経営方針において取り組むべき課題があるとの見解が特に独立社外取締役から得られました。

<提言>

現中期計画期間に以下の議論を実施し、持続的な企業価値向上を確実なものとする。

- ・ I P 軸戦略の現状と今後の方向性を確認し、中長期の視点に立って、時代適合の進化に向けた議論を実施する。
- ・ 議論から浮かび上がる中長期的な課題を「攻め（新たな好機）」と「守り（未来に向けて脆弱な可能性がある部分）」の両面から検討する。

<提言への対応>

取締役会とは別に、各取締役の多様な視点のもと議論を行うVision Meeting※を活用し、全取締役で以下のプロセスにて継続的に議論を行います。また、これらの議論を通じてあがった意見や課題については、今後の様々な取り組みや施策において反映していくとともに、スピーディな対応が求められる課題については、優先度を踏まえ速やかに対応を進めてまいります。

↓

- ・ 当社グループの I P 軸戦略とそれを構成している要素を整理し、共通理解を深める。
- ・ 各事業ユニットにおける I P 軸戦略の取り組み内容や長期視点に立った課題感を共有する。
- ・ 上記を踏まえ I P 軸戦略の進化の余地、将来的な脆弱性の可能性について議論を実施。

※取締役会質問票の質問項目（大項目）

- ・ 取締役会の機能
長期経営方針の監督（5問） 法令順守とリスクマネジメント（3問）
CEO・経営幹部の監督（4問） ステークホルダーエンゲージメント（1問）
- ・ 機能を支える基盤
取締役会の構成（3問） 取締役会の運営（3問） ボードカルチャー（2問）
- ・ 取締役の実効性
議長の役割（3問） 取締役個人のパフォーマンス（6問）
- ・ 自由記述設問（7問）
事業会社の執行の監督 海外における事業執行の監督 中期計画 人材戦略 取締役間の議論の深化
他の取締役の行動発揮 取締役会評価のあり方

※Vision Meetingについて

グループとしての中長期的な強化テーマについて議論を行う全取締役が参加するトップミーティング

以 上